

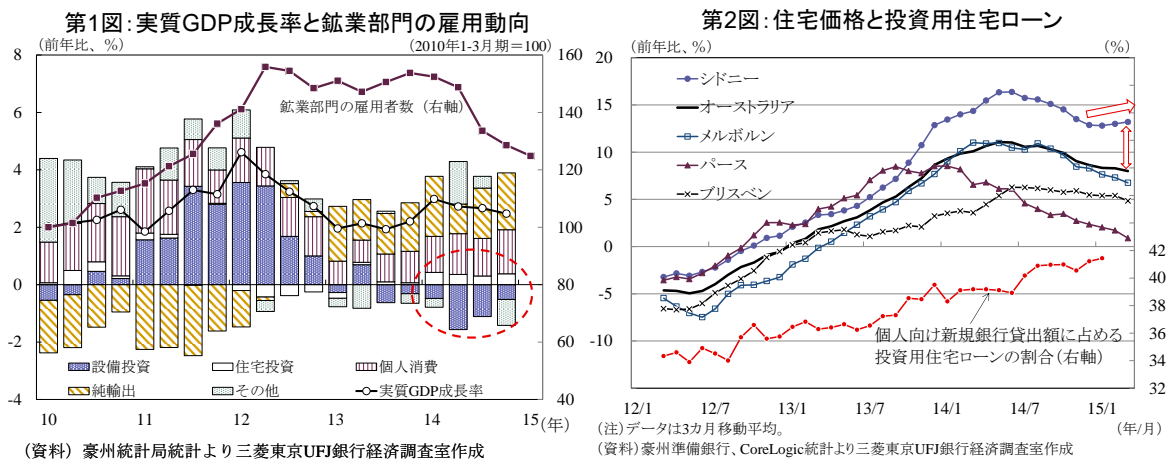
経済マンスリー [オーストラリア]

中銀は 3 月に金利据え置きも、景気が減速するなか追加金融緩和を示唆

豪州経済は資源価格が下落するなか、減速傾向が続いている。2014 年の実質 GDP 成長率は年前半こそ前年比+3%近くを維持したが、年後半は資源価格の下落を受けた鉱業部門の減速や、企業の設備投資の落ち込みで、同+2%台半ばまで減速した（第 1 図）。2015 年入り後には、景気は一段と減速している。これまで堅調であった個人消費も、軟調な雇用環境などを背景に鈍化していること加えて、最大の輸出先である中国で景気減速感が強まっており、輸出も低迷している。雇用環境をみると、2 月の失業率は 6.3%と高止まりしている。低迷が続く鉱業部門に代わる受け皿となる産業の回復が遅れるなか、雇用の先行指標とされる求人広告や欠員率、企業の雇用意欲はいずれも低水準に止まっており、失業率は一段と上昇する虞もある。

景気が一段と減速していることを受け 2 月に続いての利下げを期待する声もあったが、豪州準備銀行（RBA）は、3 月の理事会で政策金利を据え置いた。17 日に公表された議事録では、2 月の利下げ効果を見極める必要性を据え置きの主因として挙げたが、未曾有の低金利が貸出や預金行動に与える影響が不透明であることも指摘した。

低金利の影響という観点では、RBA は住宅市場の動向を注視している。住宅価格の上昇は、総じてみれば 2014 年半ば以降ピークアウトしているが、シドニーでは 2015 年に入り再び加速している（第 2 図）。3 月 25 日に発表した半期毎の「金融安定化報告」において、RBA はシドニーなどの大都市を中心に投資向け住宅の旺盛な需要が価格を押し上げているとみている。一段の金利低下がこうした投資活動を活発化させ、住宅価格の一段の上昇と、その後の急低下リスクを高めることを懸念している。同時に、RBA は「持続可能な需要の伸びとインフレ目標達成のためには更なる金融緩和が適切となる可能性がある」と、追加緩和にも含みを残した。景気の減速が続くなかで、RBA は追加利下げのタイミングを探っていくことになりそうだ。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
大幸 雅代 masayo_taiko@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。